

施策・基本事業評価表

優先度:成果=高。財源=低。●社会教育課、中央公民館、福祉事務所

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
5-2	青少年の健全育成	未成年者	青少年が健全に育成され、豊かな社会を築く一員になっている。	成果	将来の自分の目標を明確に持っている新成人の割合(%)	42.0	53.4	37.4	33.5	44.2	44	30.1	↑	40.7	30.8	28.5	↑	不調	自分の将来をはっきり決めている新成人の割合は、28.5%で目標値には遠い結果で不調とした。しかし、だいたい決めている人の割合まで含めると81.8%で前年の72.5%を9.3ポイント上昇しており、自分の将来に目標を持っている人が少ないとは言えない。	自分の将来に目標を持つには、適正な判断能力を身に着けることが重要と考え、従来より実施しているエンジョイ広場、通学合宿、友愛キャンプ、少年の船など体験学習を進めるとともに、27年度の新規事業として子ども会インリーダー研修、中学生ボランティアちっこ塾、高校生ボランティア登録制度を始める。 また、将来の就業を考えるきっかけとなる、ちくこ子どもワークキャンパス、なるには講座を実施する。
				成果	青少年の補導者数(人)	829	976	1,149	1,179	862	1,145	843	↓	797	875	1,095	↓	不調	補導者数は、前年度より220名増加し、1,095名となり、目標値を大きく超えたため不調とした。繰り返し補導される者が多く、警察担当者による補導者の実人数は30名程度であるということであった。また、補導が多いのは深夜のコンビニや公園等の徘徊である。	市の施策としては、将来的に刑法犯とならないような体験活動などの青少年健全育成事業を中心に進めていく。筑後市青少年育成指導員会(事務局:筑後市社会教育課)のより効果的な活動を目指し、青少年非行防止に取り組み筑後警察署少年補導員連絡会(事務局:筑後警察署)や学校警察連絡協議会筑後支部(事務局:小中学校)と情報交換を行う。
				成果	青少年の刑法犯数(人)	74	44	69	69	82	71	70	↓	42	48	29	↓	目標達成	刑法犯数は、前年度より19件減少し、29件となり、目標値を達成している。罪種別で見ると凶悪犯1件(強盗1件)、粗暴犯0件、窃盗犯15件(万引き11件、オートバイ盗4件)、専有離脱物横領5件、その他8件となっている。	

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	家庭や地域の教育力の向上による生活基本習慣の習得	乳幼児、小学生	青少年が生活の基本習慣を身につけ、健全な社会人に成長する。	成果	地域の子どもたちが基本的な生活習慣を身につけていると思う市民の割合(%)	44.3	49.0	44.9	52.1	52.9	54.6	58.8	↑	59.5	60.8	62.0	↑	目標達成	基本的な生活習慣を身につけていると思う市民の割合は、62.0%で目標の60%を達成した。あいさつ運動や安心安全活動など地域の方々による声掛けなどの成果が表れたと考えられるが、あいさつができていないと回答している市民の割合は前年の24.9%から26.8%に増加しており、さらに多くの子どもがあいさつできるようになる取り組みが必要である。	筑後市青少年育成市民会議において、現在実施している、あいさつ運動、青少年健全育成のための意見発表会、トイレ清掃運動などの、より効果的な実施方法や校区コミュニティ協議会など地域における活動について協議検討し、実施していく。
				成果	地域の子どもや学校教育支援、育成活動にかかわっている市民の割合(%)	16.1	20.6	19.3	20.6	20.6	18.7	22.4	↑	23.7	22.4	18.7	↑	不調	活動に関わっている市民の割合は18.7%で、前年より3.7ポイント減少したため不調とした。減少の主な要因は、活動参加率が一番高い交通安全活動(登下校の見守りなど)が前年の13.5%から9.6%となり、3.9ポイント減少したことである。しかし、地域支援課によると各地域の交通安全活動(登下校の見守りなど)が低下しているとの情報は無いとのことである。	地域の子どもや学校教育支援、育成活動にかかわる市民が増えるように、青少年市民会議、青少年育成指導員会で協議を進め、校区コミュニティ協議会とも意見交換を行う。
02	子どもの居場所づくりや体験活動の推進	行政、青少年団体	子どもたちの居場所づくりや体験活動を推進することで、多くの子どもたちが参加交流し、自立性が養われている。	代替	青少年育成活動・体験活動の延べ参加者数(人)	9,773	9,259	7,801	7,561	6,344	5,792	5,443	10,000	6,537	6,998	6,589	8,000	横ばい	参加者数は6,589名で前年度より409名減少し、24年度とほぼ同水準となった。減少の要因はエンジョイ広場の参加者数が前年度より590名減少したことが主な要因であるが、エンジョイ広場の参加者数は事業内容で大きく数字が動くため横ばいとした。	27年度の新規事業として、リーダー養成・地域でボランティア体験につながる子ども会インリーダー研修、中学生ボランティア塾、高校生ボランティア登録制度を始める。 また、将来の就業を考えるきっかけとなる、職業体験ができるちくこ子どもワークキャンパスを充実させる。
				代替	青少年育成活動の事業数(件)	18	16	16	15	16	18	18	20	19	18	19	20	横ばい	新規事業として「子どもワークキャンパス」を実施、隔年実施のジュニア美術展開催、近隣施設等でも類似事業が実施されている「親子やきもの教室」を廃止で、事業数は前年より1増となった。	

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	25年度	26年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
03	青少年犯罪の抑制	青少年	関係機関や地域との連携を強めることで、青少年が犯罪被害にあったり罪を犯したりしないようになる。	成果	青少年の補導者数(人)	829	976	1,149	1,179	862	1,145	843	↓	797	875	1,095	↓	不調	補導者数は、前年度より220名増加し、1,095名となり、目標値を大きく超えたため不調とした。繰り返し補導される者が多く、警察担当者によると補導者の実人数は30名程度であるということがあった。また、補導が多いのは深夜のコンビニや公園等の徘徊である。	市の施策としては、将来的に刑法犯とならないような体験活動などの青少年健全育成事業を中心に進めていく。筑後市青少年育成指導員会(事務局:筑後市社会教育課)のより効果的な活動を目指し、青少年非行防止に取り組む筑後警察署少年補導員連絡会(事務局:筑後警察署)や学校警察連絡協議会筑後支部(事務局:小中学校)と情報交換を行う。
				成果	青少年の刑法犯数(人)	74	44	69	69	82	71	70	↓	42	48	29	↓	目標達成	刑法犯数は、前年度より19件減少し、29件となり、目標値を達成している。罪種別で見ると凶悪犯1件(強盗1件)、粗暴犯0件、窃盗犯15件(万引き11件、オートバイ盗4件)、専有離脱物横領5件、その他8件となっている。	